

# 「微笑み」と「話しかけ」で最高の医療を

病院長 中村 肇



微笑みはTPOを間違うととんでもない誤解を相手に与えるので、お互いに訓練し、微笑みの達人になってくださいと。

◆Smile your grief away.

笑って悲しみをぶっ飛ばせ◆

医療不信が叫ばれる中で、医療者が心しなければならぬのが「話しかけ」です。イノベーション、組織・社会の変革をスローガンとする今の日本の企業社会では、合理性、効率性が優先しており、医療も例外ではありません。「もの」中心の現代社会では、「話しかけ」は軽視されがちですが、「話しかけ」こそ医療の原点、子どもと親たちが求めているものです。如何にマニュアル通りの医療を行ったところで、ひとつひとつ医療行為が患者に正しく伝わっていなければ、患者は不安になります。「話しかけ」による子どもと親たちの安心が、医療者にとっての最高の喜びであり、それこそが生き甲斐です。

さあ、「微笑み」と「話しかけ」で病める子どもたちの不安を解消し、夢と希望、生きる喜びを子どもたちに与えてください。



こども病院では、5年前に小児救急医療室を立ち上げ、昨年10月ようやく本格的な小児集中治療室をもつ小児救急医療センターを開設しました。兵庫県下の三次小児救急医療の拠点病院として機能するようになり、慢性疾患中心から急性期疾患中心の病院へと診療内容も変化しつつあります。

約40年前に建てられた本館病棟は、お子さまだけが入院して治療するという当時としては斬新な考えで設計されたものでした。しかし、医療の進歩とともに、慢性疾患よりも急性期疾患のために入院する子どもたちが増加し、親子で一緒に病棟で過せる時間をもちたいというニーズが高まってました。入院当初の子どもたちは、病んでいるだけでなく、独りぼっちになるという二重の不安に襲われています。母親がベッドサイドにいただけで子どもたちの不安は大いに軽減されます。今では、親子の絆を大切にし、ご家族とともに実践する医療を目指しています。

質の高い医療の実現には、医療環境のハード面での充実もさることながら、医療者の心構えがもっと大切です。

絶えず逆境にある子どもたちに接しているわれわれ医療者が忘れてはならないのが「微笑み」だと思います。子どもたちが自分の病と闘う中で、ナースの微笑みは子どもたちに夢と自信を与えてくれ、大きな生きる喜びとなります。かつて私はこの「げんきカエル」に書きました。

# 妊娠、授乳中の インフルエンザワクチン接種について

周産期医療センター所長兼産科部長 大橋 正伸

毎年、インフルエンザの季節になると、妊娠中または授乳中だがインフルエンザワクチンを接種しても大丈夫ですかという質問を受けますので、紙面をお借りして米国の最新情報をお伝えします。

米国では国を挙げてインフルエンザワクチンの毎年接種を推奨することになり、米国疾病管理予防センター（CDC）は2007年から感謝祭が終わったあとの11月26日から12月2日までをインフルエンザワクチン接種週間として定め、国中で接種推進活動を展開しています。特に2007年11月27日は子供の接種推進日とされました。米国では毎年2万人の5歳未満の子供がインフルエンザのために入院しています。そこで、今年は特にインフルエンザに罹ると非常に重篤になるリスクの高い子供たちだけではなく、まず大人（親、医療関係者、保育士、教師など）がワクチンの接種を受け、大人がインフルエンザに罹って周囲の乳幼児や子供にうつさないようにすることの重要性を広報することになりました。

また、CDCとアメリカ産婦人科医会（ACOG）、およびアメリカ家庭医学会（AAFP）は全ての妊婦と授乳中の母親、および5歳未満の乳幼児を持つ母親と家族にインフルエンザワクチンの接種を推奨しています。その理由は、妊娠中にインフルエンザにかかると、妊娠母体は妊娠していない時

よりも重症化しやすくなること。そのため高熱などによって胎児に悪影響を及ぼすことです。また授乳中にお母さんがインフルエンザにかかると、赤ちゃんにうつりやすく、インフルエンザに抵抗力のない赤ちゃんは重症化しやすくなるためです。以上の理由から、妊娠中、および授乳中にはむしろ積極的にインフルエンザワクチンの接種が薦められているのです。

今までに全世界で200万人以上の妊婦さんがインフルエンザワクチンの接種を受けてきましたが、妊娠初期にワクチンを接種することで胎児奇形などの悪影響が現われたり、妊娠・分娩経過に異常をきたしたという報告はありません。しかし、どうしても心配な方は妊娠15週以降に接種してもらうとよいでしょう。また、授乳中に接種すると母乳を介して赤ちゃんに悪い影響が出るのではないかと心配される方もおられますが、そういった報告もありませんので授乳を止める必要はありません。

ただし、インフルエンザワクチンに限らず、全てのワクチンには接種後に発熱や注射部位の過敏症状などがでる可能性がありますことをご了解ください。しかし、これらが胎児や乳児に悪い影響を与えたという報告はありませんのでご安心ください。



# 愛情あふれる学童病棟

- 学童主体病棟は、内科・外科系を問わずさまざまな病気で幼児期から思春期の幅広い年齢層の患者様が入院されます。入院生活は、ご家族やお友だちと離れ、入院前とは異なる生活になります。私たちは治療だけではなく、学習や遊びも取入れながら、患者様が規則正しい生活が送れるように支援しています。退院後の生活に向けては、成長発達に応じ、薬の管理やリハビリを患者様と共に考え、薬剤師や栄養士・理学療法士などの他部門や、学校・地域との連携を図るように努めています。
- 患者様の入院生活を支える上で、学校の先生、お友だち、ボランティアの方々にも協力を頂きながら、「家族の方とともに」を合言葉に病棟スタッフ一丸となっております。
- 当院では、様々な方々による催し物や病院訪問などのイベントがあり、子どもたちは楽しみにしています。先日は、アメリカ大リーグの田口選手・オリックスの辻選手が病院を訪問してくださいました。子ども達は、前日からサインをもらう準備をしたり、当日は紙ふぶきで選手を出迎えたりと楽しいひとときを過ごし、大きな励みを頂きました。病棟内では互いに思いやり、励ましあうなど学童期ならではのほほましい姿も見られ、看護師自身もパワーを分けてもらっています。
- これからも、どうぞ学童病棟で頑張っている子どもたちを見守り応援してください。



## 院外処方せんについての疑問にお答えします

薬剤部は今年度の「げんきカエル」で院外処方せんを取り上げてきました。今回はその総まとめとして皆様の疑問にお答えします。

**Q1**：なぜ「院外処方せん」にする必要があるのですか？

**A1**：現在、全国的に院外処方が進んでいるのは、厚生労働省が医薬品を適正に使用する目的で進めているからです。これは、医師が患者様に薬を処方し、患者様は「処方せん」を受け取ることでその内容を知り、薬局（かかりつけ薬局）では薬剤師が複数の医療機関からの薬の相互作用・重複薬チェック、副作用の有無等確認し調剤することで、患者様に薬を安全に飲んでいただくための制度です。

**Q2**：院外処方になると病院の薬剤師は何をするのですか？

**A2**：今まで外来・入院患者様両方の調剤を中心に業務を行っていましたが、院外処方になると、

入院患者様に対しての調剤・病棟での薬の説明・血液中の薬の濃度測定や分析等に専念でき、入院患者様に対してより良い医療を提供することができます。

**Q3**：外来患者にはメリットはありますか？

**A3**：厚生労働省は「かかりつけ薬局」を推進しています。Q&Aの1でも説明していますが、そこでは様々な薬のチェックを行い、患者様に時間をかけて説明し、安全に納得して薬を飲んでいただくことができます。

**Q4**：外来患者でも院内で薬のことを聞くことができますか？

**A4**：「院外処方せん」を発行している患者様も、お薬内容や調剤薬局についての御不審があればお気軽に薬剤部窓口でご相談ください。

### お仕事紹介 その7の②

#### 「心理療法」つづき



指導相談・地域医療連携部  
心理判定員(臨床心理士) 宮崎 美知恵

前回筆者が執筆したときに、「心理療法」を受ける対象となるお子さまや受けるにあたってのあらましを書きました。今回は、実際の心理療法がどのように行われていくのかを書いてみようと思います。

まだうまく言葉で表現するのが難しい思春期以前のお子さまは、プレイルームというおもちゃやゲームなどが置いてある部屋で行います。そこで自由に過ごしているうちにお子さまの不安や恐れ、怒り、悲しみなどといった感情が遊びの中に表れてきます。そういった感情を担当者が受けとり、よりお子さまに

とって受けとりやすい形にして返します。それは、例えるなら、小さい子どもが大人のご飯を食べるのが難しいときに、食べ物を小さく切ってあげたり、食べやすくして、お母さんがあげるといったやり方のこのころのバージョンといってもいいかと思います。どうしてそういったことをしていくかというと、このころの不具合の多くは、お子さまが抱えきれない不安や恐れ、怒り、悲しみ等をもっていて、消化しきれずに起こっていることが多いからです。こういった、プレイルームで遊びを通して行う心理療法を遊戯療法といいます。

もし、「心理療法」をお受けになりたいときには、診療とも深く関係するので、当院にかかっている医師にご相談ください。

産科病棟で

# 「クリスマス・ランチバイキング給食」 「バレンタイン・ケーキデザートバイキング」

を開催しました。

栄養指導課長 下浦 佳之



● 周産期医療センターの産科病棟において、平成19年12月25日のクリスマスの日に「**クリスマス・ランチバイキング給食**」の開催、平成20年2月14日聖バレンタインデーには「**バレンタイン・ケーキデザートバイキング**」を実施いたしました。

● どちらのイベントも産科入院患者様にクリスマスパーティーの雰囲気、バレンタインデーでの「わくわく・どきどき」の気持ちを感じていただき、単調な入院生活の中での楽しみのひとときを過ごしていただくため、日頃の食事提供方式ではなくバイキング形式の給食やデザートを提供させていただきました。

● 「クリスマス・ランチバイキング」では神戸市垂水区にある愛徳学園高等学校の吹奏楽部ボランティア（写真）の皆様によりクリスマスにちなんだアンサンブルの演奏を楽しんでいただき、当課調理員が全て調理したローストチキンやサーモンの香草焼き等豪華なクリスマスメニューの料理を喫食していただきました。

● 「生演奏は胎教によさそう」「おいしかった、カードもありがとう」「入院していると気持ちが減入るの

でもっともっと開催してください」「調理師さんが盛り付けをサポートしてくれたり、いつも食事を作ったださっている皆さんの顔を見れたのもうれしい」というご意見も頂戴し、課員も皆様のお腹以上？に感謝の気持ちと初めての試みに対する充実感で胸がいっぱいになりました。

● また、「バレンタイン・ケーキデザートバイキング」においては、全てに手作りのケーキを6種類、フルーツ各種、飲み物を提供させていただきました。病状等により食堂に来られない患者様には管理栄養士等が実物のケーキを持参して病室に伺い、栄養管理に基づき、病状に応じたケーキ等を選んでいただけるようアドバイスをしながらケーキデザートバイキングを楽しんでいただきました。「神戸の洋菓子店から派遣された方かと思いました、美味しかったです。」「病室でケーキが選択できるなんて思って無かったので嬉しかった。」等々、よい評価を得ました。

● 今後ともこのようなイベントを開催し、ひとときでも病気のことを忘れ、皆様の「美味しかったよ」という「笑顔」がみられるよう、われわれも「ほほ笑み」の医療を忘れずに日々の業務を努めさせていただきます。

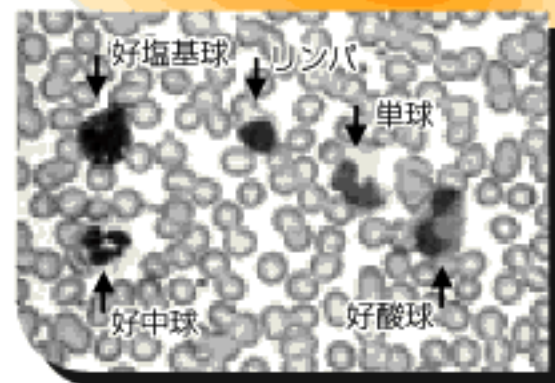
Notice  
from  
Dietician  
栄養指導課案内

白血球は外敵からからだを守るのに大切な細胞ですが、  
実は**5**種類の細胞があることをご存知ですか？

白血球は**好中球**、**好酸球**、**好塩基球**、**単球**、**リンパ球**に分けられ、それぞれに役割分担があります。

まず、好中球は白血球の中で最も多く、主に細菌などの病原体が体内に入ってきたとき、真っ先に駆け寄り、殺菌して処理します。次に多いのがリンパ球（生後2週間～4歳ごろまでは最も多い）で、主にウイルスを退治します。単球は組織内に入ってアメーバのように病原体に近づき、食べて除去してくれます。好酸球は寄生虫を殺してくれますが、時にはぜんそくや薬物アレルギーなど、からだにとってマイナスの作用を引き起こすこともあります。

血液検査室では自動分析装置を用いて、これらの細胞に異常がないかどうか検査しています。さらに血球を染色して顕微鏡で観察し、チェックしています。



◆5種類の白血球

## 放射線安全管理やっています！ —血管造影検査室—

検査・放射線部 関尾 直士

放射線科では文字どおりX線などの放射線を用いて各種(MRI・エコーを除く)の検査を行いますので、お子さまへの放射線被ばくを心配される保護者の方は多いのではないのでしょうか？胸部写真などのX線撮影による被ばく量はごく微量ですから身体に影響が現れることはありません。しかし、血管造影検査はX線撮影と比べて検査時間は長く、被ばく量もずいぶん多くなりますので、適切な放射線安全管理を行わないと皮膚に日焼けの様な影響（皮膚紅斑）が現れることがあります。血管造影室ではこの様な影響が現れないように検査装置の被ばく量を定期的に計測し、装置の品質管理を行っております。また、患者様ごとに被ばく量の計算を行い、被ばく量が安全な範囲を越えることが無いように医師・看護師と

協力しながら検査を行っていますので、当院では検査後に皮膚紅斑が現れたことはありません。今後も安全に検査を受けていただけるように、放射線のプロとして安全管理を行っていきます。



# CHRISTMAS

## クリスマス会

平成19年12月18日 周産期医療センター玄関ホールで「クリスマス会」が神戸ハーバーライオンズクラブさんの主催で行われました。楽しいアトラクションや歌とダンスで楽しみました。

たくさんのお友達がホールに集まり、熱気があふれていました。サンタさんやトナカイさんからプレゼントももらいましたよ。



### <子育て情報>

#### 「小児救急医療電話相談#8000のご紹介」

兵庫県が設置する小児救急医療電話相談窓口です

◆こどもの急病やけがで受診を迷う時、不安な時の電話相談で、看護師等が相談に乗ってくれます。

あらかじめ、携帯電話の電話帳に電話番号を登録しておきましょう！！

**電話番号は#8000**

市外局番が06または072の方、ダイヤル回線、IP電話の方は

**078-731-8899** (ははきゅうきゅう)

◆相談時間

平日・土曜日：午後6時～午後10時／日曜祝日及び年末年始：午前9時～午後10時





## 基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

## 基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

## 患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
- 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。

◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

## 編集後記

寒い冬が去って、青空と桜のコントラストが美しい季節になりました。厳しい冬があるからこそ春を待ち望む気持ちが強くなるのでしょうか。こども病院に通われているお子さんやご両親にも、少しでも暖かい春が訪れますように

私たちも一緒に頑張りたいと思います。

編集委員長：大橋 正伸（診療部）

編集渉外担当：久布白 歩（指導相談・地域医療連携部）

編集委員：福田 朝恵（薬剤部）、荻野朱美（看護部）、  
時吉 あけみ（看護部）、藤井 康可（検査・放射線部）

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

## 兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1  
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:[info\\_kch@hp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@hp.pref.hyogo.jp)